

分科会議事メモ (3. フード・バリュー・チェーン)

【育成する人材像】

- ・FVC というのは広範で、どのように人材育成を行うのかについては漠然としたイメージ。(例えば生産分野に絞るのであれば、具体的にイメージすることは可能)
- ・名古屋大学で参加しているカンボジア熱帯酪農事業においては、生産・加工・流通の観点が含まれている。
- ・誰をターゲットにすることで Value を上げることに近づくのかということを検討すべき。例えばアフリカでは、政府人材というよりも加工業者・流通業者等の民間人材にアプローチする方が効果的。他方、民間人材は長期で学位を取りに行くということは容易ではない。
- ・政府の役割はFVCのボトルネックを分析できる人を育てていくことではないか。例えば政府人材を対象にするのであれば政策研究をテーマとしていくというもの一案。
- ・ウクライナ - 新潟大学との間で SATREPS を相談中。同国では VC に組み込まれていない人たちが担う、小規模な農業を学びたいという意向が示されている。こういった人たちを対象に留学事業を考えていきたい。
- ・アフリカでは農業省の中に Agribusiness 課のような部署が立ち上がっている。こういうところに配属されている人材を対象にするのはありうる。
- ・輸出の殆どが農産物という国も多く、そういった国に対しては貿易関係の人材を対象とするのも一案。

【協力対象候補国】

- ・対象国は、大学と一定の交流があったところであればいいが、根っこの無いところだといきなり受け入れるのは難しい。大学は学位授与をしていかななくてはならないが、それに耐えうる人でないと受け入れられない。また、大学間でネットワークを作ってやっついていかないと対応できない。

【留学生事業の質の向上への取り組み】

- ・大学の中でも FVC で横串のプログラムを組んでいくのが効果的であると認識。
- ・FVC は特に民間・ビジネスの要素が強いので、政府からの留学生と併せて民間の業界団体等からも一緒に来てもらうのが効果的ではないか(基本、短期ベース)。

【今後のスケジュール】

- ・政策研究やFVCとしての大学ネットワークによる人材育成構想はここ 1~2 年の間に検討を進めていくべきだろう。